

近隣の自然の変化に目を向ける 番外編(Z3)

「決してさぼってないサボテンたち

Cactuses: not lazy but miraculous plants」

2021年9月6日

サボテンは木か草か？（生物学的に問う：草木か木本か？）。実は、決めかねている（不明確な）植物で、多肉植物と呼ばれている。サボテンの語源は？樹液がシャボン（石鹼）として使われていた事からシャボテンとなった。カクタス cactus はギリシャ語で棘だらけの植物を意味する。中国名は仙人掌。2000種以上存在し、独特な形態、棘のある体から目を惹く原色の美しい花が乾燥した荒地に凜と咲く特異な生態などに魅せられたサボテンマニアが世界中にいる、と言う Wiki の記述に素直に納得できる。日本では、愛知県春日井市が「サボテンのまち」として最大産地で、地元大学で研究、企業と連携して町おこしをしている。コロナ禍でサボテンを家で育てる人が急増しているという巷のウワサは、ホームセンターの園芸コーナーを見ると本当だと思える。

今回のアルバムに紹介するサボテンは、過去数年間に芦花公園はじめ各地で撮影し、わが家で育てたことのある花（月下美人）である。

上段の3種はクジャクサボテンの仲間で、その優美な姿に誰もが目を見張らされるだろう。芦花公園内で見たクジャク（孔雀）サボテンは、数日間散歩する人々を楽しませてくれた。月下美人は、その名の通り夕刻から咲き始め、夜半に全開する。その過程を写真に収めている間、甘く香りに部屋が包まれた。驚いたのは、開きつつある花の中に指を入れると温かかった事で、開花するためのエネルギーが伝わって来た。実際には、夜間に虫を呼び寄せ、花粉を運ばせる植物なりの知恵かと思う。朝には花はグッタリ萎えた姿に変わるが、それを冷蔵庫に保存し、薄い酢を加えて食べると、粘りのある花弁が美味しい。優雅な月夜の夜を堪能できる（Queen of the Night をぜひ体験してみて下さい）。

花盛丸もわが家で育てたサボテン。均整のとれた美しい花が2輪、3輪と咲く。和名は今回知ったが、下段の花にもそれぞれ凝った和名（旺盛丸、花盛竜、栄冠玉）が付けられている。サボテンマニアの心意気が伝わって来るようだ。

なお、錦晃星と黒法師は、花ではなく肉厚の葉の広がり方が独特的の魅力を有する多肉植物だ。この種のサボテンに熱中しているマニアがいる事を今回新たに知った。

サボテンには他の草木類の花とはまた違った魅力があるようだが、熱帯果実のドラゴンフルーツは食用として有名（マレーシアの子どもの家で食した事を思い出す）。

わが家のベランダで元気に育っているアロエについて一言：さすがサボテン、数年間水上げを忘れていても（雨水で）枯れることがなかった。株分け後、毎朝水をあげているので生き生きとどんどん増えている（お分けします！）。葉は、軽い火傷や擦り傷などの炎症を沈静させ、回復を早める効果、さらには解毒作用、二日酔いに効果もあるとされている。見るだけで満足だがいつか世話になるかも。